

## 子ども自身が自分を「かけがえのない存在」と感じてほしい

子どもの権利擁護委員 小林 央美



子どもの権利相談センターでの活動を続けていて、切に思うことがあります。それは、「子ども一人ひとりに、自分自身をかけがえのない存在と感じてほしい」という思いです。そして、「自分自身をそんなに責めなくていいんだよ」と言いたいのです。

例えば、友達に無視されているようで悲しいので何とか解決したいという相談、親の勧める進路と自分が希望する進路が合わなくて、どう解決すればいいだろうかという相談等を受けた時のことです。「自分が悪いから無視されても仕方がないのだ」とか、「自分は成績が良くないから、親の言うとおりにした方がいいのだ」というような言葉を子どもが発することがあるのです。



### すべての子どもが一人ひとり大事な存在

そんな時、切に伝えたいと思います。『すべての人が持っている大切な権利、「人権」というものがあるのだよ。人権は、人間が人間らしく、あなたがあなたらしく、皆、幸せを求めていくことのできる権利だよ。あなたたち一人ひとり、みんなが「人権」を持っている。「大事な大事な存在」なのだよ』ということ。子どもたちみんなに知ってほしいと切に願っていました。

先般、そんな願いが叶う場面がありました。青森市内のある中学校で、全校生徒にお話をする機会をいただきました。生徒の皆さんは、一生懸命話を聞いてくださいました。とてもうれしかったです。子どもが自分自身の権利を意識し、それを行使しながら課題を解決していくことができれば、どんなにいいでしょうか。

### 子どもは成長の途上にある

子どもの権利が特に重要であると考え理由は2つあります。一つに、「子どもは成長の途上にある」からです。子どもは様々な失敗を含めた経験を経て成長します。その解決の仕方や過程は、その後の生き方に大きな影響を与えるとされています。解決において、大人の助けが必要な場合もあります。

もう一つは、「子どもは弱い立場になることがある」からです。大人とのかかわりの中で、どうしても声を出しにくい関係性になる場合があります。

## 大人のかかわりの重要性

子どもは、よりよい課題解決を通して人格が形成され、成長していきます。そのよりよい課題解決において、権利の行使は、大変重要であると考えます。子どもが自ら権利行使をすることができるためには、大人のかかわり方が重要です。

今回から3回にわたり、子どもが自らの権利を行使し、子どものよりよい課題解決に向けた条件を整えるための大人の役割について、考えていきたいと思えます。本稿は、京都大学准教授森口佑介先生が論じている「未来に向かう力を育むための大人のかかわり」を参考に、紹介していきます。

なお、事例はプライバシーの保護を最優先に、論旨に影響のない範囲で改変して提示しております。

